

い～な E-naだより

国土交通省関東地方整備局
江戸川河川事務所発行
電話04(7125)7311
2016年1月22日【第5号】

「堤防の共同点検を改めて実施 ～平成27年関東・東北豪雨を受けて～」

昨年9月の大雨で堤防が決壊した鬼怒川では、沿川の多くの住民が逃げ遅れ、ヘリなどで救出されました。

このため、避難勧告などを発令する沿川自治体と改めて共同で堤防点検を実施し、堤防が低い箇所における堤防高などを再確認しました。

江戸川河川事務所では、毎年梅雨期前及び台風期には、徒歩を中心とした堤防点検を実施し、堤防の万全な管理、機能の保持に努めています。日々の維持管理については「河川管理レポート」をご覧ください。



(<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00691.html>)

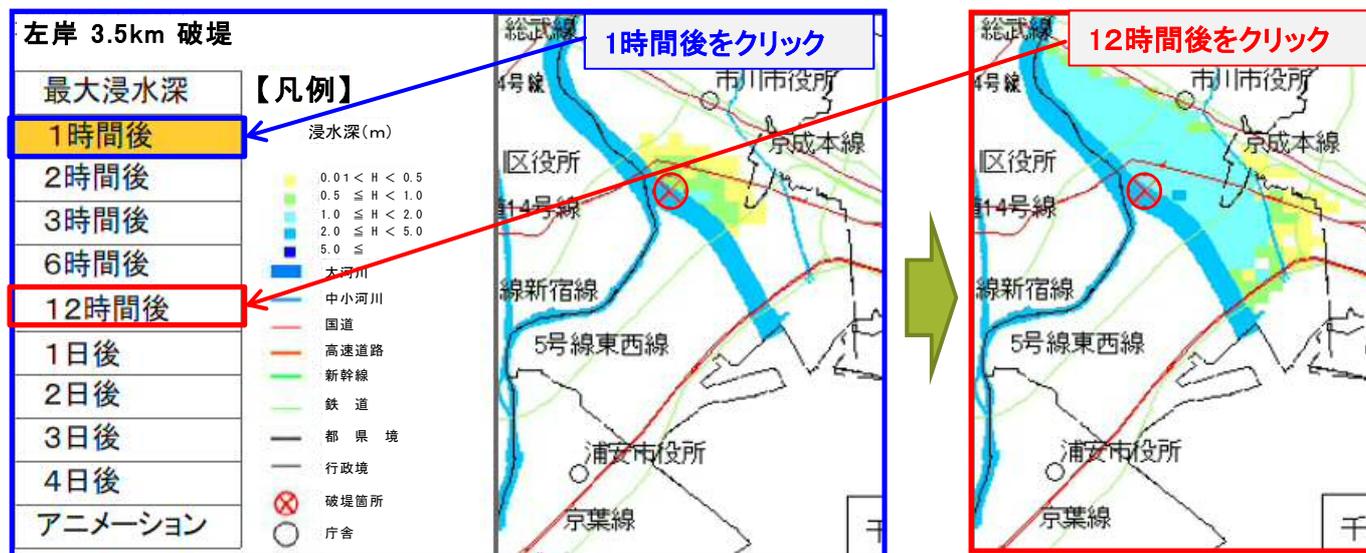
「命を守るために ～取るべき避難行動の再確認～」

避難勧告が発令されました！あなたはどこに避難しますか？

河川ごと、自治体ごとに発令される避難勧告などに応じて、安全に避難するためには、あらかじめどこに避難するか決めておくことが大切です。この機会に、下記の氾濫シミュレーションを活用して、再確認しておきませんか。

(http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/saigai/hanran/hatei_main.htm)

<検索例> 江戸川左岸3.5km 市川市で決壊した場合（1時間後、12時間後）



※地盤高の起伏状況により、実際とシミュレーションの浸水深は異なる場合がありますので、ご留意下さい。詳しくはこちらをご覧ください。

(http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa_index008.html)

外郭放水路の特別見学会を開催！

平成27年11月14日（土）、庄和排水機場において首都圏外郭放水路の特別見学会を開催しました。調圧水槽（地下神殿）の無料開放だけでなく、ポンプ室やインペラ（調圧水槽内にある羽根車）の特別公開や、降雨体験車で約1時間あたり300mm（日本最大規模の降雨量）の降雨の体験なども行いました。

また同時に地元主催の彩龍の川まつり・カッパ市ではグラウンドを利用して屋台が出店されたり、龍Q館内にはゆるキャラが登場するなど様々な催しが開かれた結果、雨が降るあいにくの天気にも拘わらず、1日で約14,000人の方のご来場を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

一方で調圧水槽入場には約2時間待ちの行列ができてきたり、駅からのバスも混雑するなどしたことから、来年度の開催に向けて改善に努めてまいります。

ここにインペラが付いています！



インペラ見学の様子

お断り
「調圧水槽」（地下神殿）は開始時間を早めて9時40分ころから入場開始とさせていただきますが、一部の方につきましてはご入場頂けない状況となりました。



インペラは全部で4台あるので、毎秒最大200m³（小学校にあるプール程度）を1秒で排水できる計算だね！



インペラ（羽根車）を下から見たところ
直径3.7m、重さ35t
毎秒50m³の水を排水（1台あたり）

★特別見学会準備のウラ話★

首都圏外郭放水路の調圧水槽には洪水により土砂が溜まります。特別見学会の前にメンテナンスを兼ねて調圧水槽に溜まっていた土砂の撤去を行いました。土砂は多いところでは約30cm溜まっていた。土砂撤去にあたっては、地上のハッチを開放して大型クレーンを使用して重機を地下に降ろし、10日間かけて土砂撤去を行いました。



重機をおろして

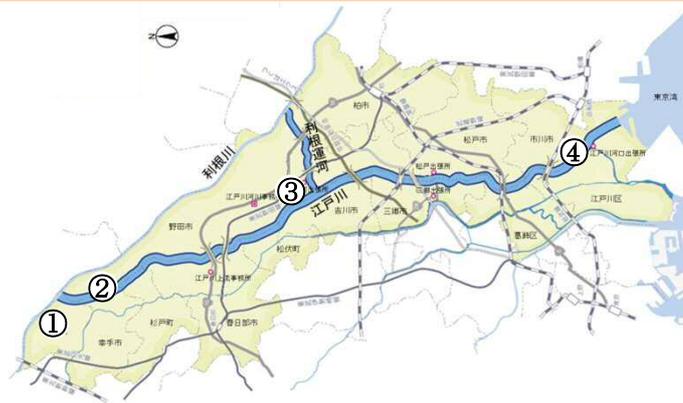


土砂を集めます！

※今回は10トンダンプトラックで約100台分の土砂を撤去しました！

江戸川改修100周年の歩み・今昔対比

当事務所は、河川改修に着手してから平成27年で100周年となり、平成27年11月19日にシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは改修に関する資料や写真などを展示しましたので、その一部を紹介します。



① 関宿水閘門

利根川から江戸川に流れる水量を調節することと、船を安全に通すことを目的に、大正7年に着工し、昭和2年に完成しました。



上の写真は、大正13年に施工された水閘門のコンクリート打ちの状況です。平成15年度には、土木学会選奨土木遺産にも選定されています。

② 築堤工事

堤防を造るとき、昔は右の写真のように人力で造っていました。現在は、下の写真のように大型の機械で造っています。



上の写真は、昭和29年関宿町元町にて、堤防を造っている状況です。

③ 利根運河

明治から大正初期にかけて水上交通の要路として利用されました。航路としての役目を終える昭和16年まで、約100万隻もの船が利用し栄えました。



上の写真は、昭和26年の運河橋付近における護岸工事の状況です。現在は、利根運河水辺公園をはじめとし人々の憩いの場として親しまれています。

④ 江戸川放水路

江戸川放水路は、大正5年より、江戸川に流せる洪水量を増やすため、行徳から東京湾に向かって約3kmを開削した人工水路です。



上の写真は、大正8年に川幅400mの放水路を掘っている状況です。現在は、一般の方が水に親しむことのできる穏やかな空間となっています。

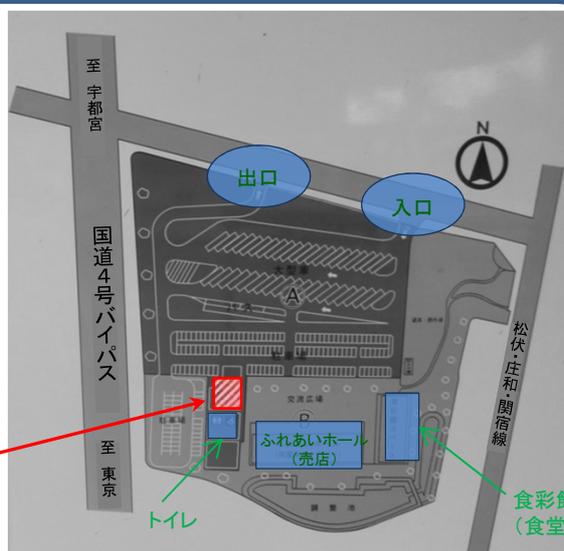


『道の駅(庄和)』でも100周年パネル展を開催！

今回の100周年に際して「道の駅(庄和)」内の情報館においても、「江戸川改修のあゆみ」の各パネル展示や首都圏外郭放水路の概要DVDの放映などを12月14日(月)から5日間にわたり開催しました。

情報館では放水路などに関する展示を常時行っていますので、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。

情報館は道の駅(庄和)内のココにあります



平成27年11月25日 **水質事故対策訓練** を実施しました

河川や水路などに油や化学物質等が流出した場合、被害を最小限に食い止めるためには、迅速かつ的確な初動対応により被害を拡大させないことが重要となります。当事務所では、油等の流出時に現場で対策を実施する担当者の技術力向上のため水質事故対策訓練を毎年行っています。



ロープ結束
訓練を実施

オイル吸着
マットを杭等
に設置する方
法を習得

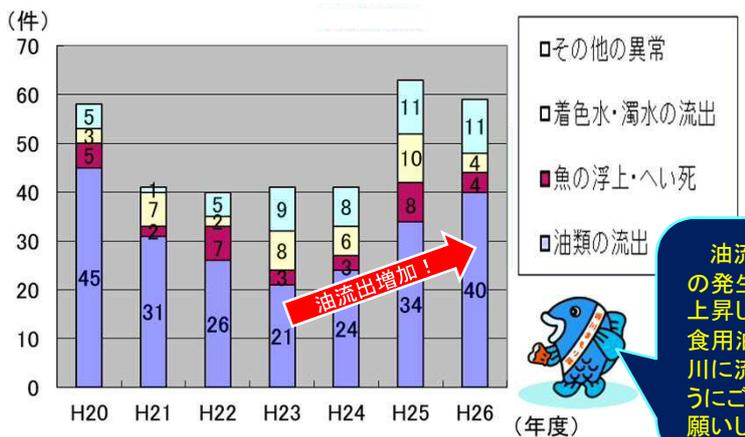


水質分析
訓練を実施

水質測定キット
による有害物質
や溶存酸素、pH
(酸性・中性・ア
ルカリ性の傾向
調査)等を測定
する方法を習得

年々増え続ける**油**の流出事故

平成26年度の水質事故発生件数は、59件（約70%が油の流出）あり、平成24年度から油類による水質事故は上昇傾向にあります。今年度は、12月末現在で既に31件発生しています。



流出油の回収のためオイル
吸着マットを設置
(H27.9 古綾瀬川にて)

油流出事故
の発生件数が
上昇しています。
食用油や塗料を
川に流さないよ
うにご協力をお
願います。

あとかき

明けましておめでとうございます。

本年も今回の紙面で紹介した取り組みを始めとして、災害が起こらないように、また万一起こっても被害が最小限に留まるように日々努めてまいります。

合わせて各種取り組みやイベントなどの情報を積極的に発信していきますので、本年もよろしくお願いたします。

・URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00671.html>

皆様のご意見・ご質問・ご感想をお待ちしています。以下の宛先へ郵便、またはURLからメールにてお送りください。

・宛先 〒278-0005千葉県野田市宮崎134 国土交通省江戸川河川事務所 E-naだより編集室

・URL <https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/utility/question.html>

※「E-naだより」は江戸川河川事務所及び各出張所（管理支所）で入手できるほか、江戸川河川事務所 H.P.(<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00691.html>)にも掲載しています。

※このQRコードから江戸川河川事務所管内の降雨状況や水位情報などが入手できます。

